

38. 群馬大学医学部附属病院に新設された第2種高気圧酸素治療装置

木谷泰治*¹⁾ 藤田達士*¹⁾ 渡辺久志*²⁾

〔*¹⁾群馬大学医学部麻酔蘇生学教室
*²⁾ 同 附属病院高気圧酸素治療室〕

当院高気圧酸素治療室は開設20年を迎えるが、本年5月より新病棟地下1階に設置された新高気圧酸素治療室での稼働が始まった。新設2種の側室では高気圧環境のほか、低気圧環境（陰圧）兼用に設計されているが、残念ながら減圧用モーターまでの予算が足りず、目下減圧室にならないことを除けば、ほぼ希望どおり施工された。

本装置は、従来の使用経験より、その治療面から操作性、監視計測制御の本格的自動化を、研究面からは種々の生体情報監視が可能になることを目的として設計された。

本装置は収容人員14名、使用圧力範囲0-5kg/cm²Gの主室、側室からなる横置円筒形耐震式構造である。制御方式はコンピュータによる全自動で、全ての操作、監視を操作盤一面で行えるため操作性と監視機能の効率化がはかられている。構造的には主室を前方に配置して側室を経由せず直接に患者の収容可能になった。

装置内床面と院内床面を完全同一平面にしていることや、室内空間の有効利用の目的で出入口扉を全て自動スライ式を採用したため、患者の出入り、ストレッチャーの搬出入が容易であるばかりでなく、院内病室の雰囲気や、患者に安心感を与えることができた。特徴としては、高気圧酸素治療中の治療室内の患者の各種生体情報を治療室内で監視解析し、その治療効果や改善度の判定指標の作成を可能にした。新たに高気圧酸素治療装置での治療運転データを集積し管理するためのデータ入力処理およびデータの検索統計などを行う治療運転処理システムを作成した。従って治療プログラムの管理操作をはじめとする運転データ、治療データの入力が発生源入力され、管理業務の効率化が達成された。

39. 千葉県における高気圧治療の現況

古山信明*¹⁾ 樋口道雄*¹⁾ 鈴木卓二*¹⁾
大塚博明*¹⁾ 野口照義*²⁾

〔*¹⁾千葉大学手術部
*²⁾千葉県救急医療センター〕

千葉県において1984年第19回本大会（野口照義会長）が開催されたが、当時千葉県の高気圧治療施設は6施設（10治療装置）であった。学会以後、治療装置を導入する施設が増え現在は15施設（23治療装置）で高気圧治療が行われている。今回は、その現況をアンケート調査により検討した。

【方法】現在高気圧治療を行っている施設にアンケート用紙を郵送し、装置、運営、学会活動等につき回答を求めた。回収率は100%であった。

【結果】15施設のうち3施設は第1種・第2種装置とも設置されている。第2種のみ施設が3施設、第1種のみ施設が9施設である。1986年以降毎年2～3の治療装置が県内に導入されている。運営面で15施設のうち5施設が独立した管理部門を有していたが、その他では、ICU、麻酔科、外科（整形外科、脳外科）など管理体制は様々である。治療を専任者が担当している施設は少なく、多くは受持医や外科系医師が治療の対象に応じて担当している。操作員は15施設中11施設で臨床工学士であり、他の4施設では医師、学会認定技師、看護婦などが操作を行っている。年間100症例、1000回以上の治療を行っている施設は6施設、治療回数500以上の施設は3施設である。学会活動ではスタッフのうち1人でも高気圧環境医学会の会員である施設は12施設、学会発表を経験している施設は5施設のうち4施設は他学会でも発表している。

【考察】千葉県では、ここ数年に導入された装置が多く、高気圧治療の発展が期待されるが、管理体制やスタッフの面では十分とはいえず安全かつ合理的な治療への対応が必要と考えられる。